

新宮山彦ぐるーぷ第1898回

行仙宿管理棟のハチの巣駆除跡復旧と

奥駆道(行仙宿↓行仙岳)の台風被害調査など

◇実施日；2016年09月25日(日) 曇り時々晴れ

◇参加者；沖崎吉信、児嶋道夫、梶野照雄。 3名

9月18日に管理棟のスズメバチの巣を駆除したが、雨が激しくなったので剥がした外壁トタンをそのままにして下山した。トタンを元通りに打ち付け、隙間をコーキングで塞ぐべく道具を用意して行仙小屋に向かった。

前日に沖崎さんから「数名参加予定」と連絡があり心強い。午前9時30分、登山口到着。沖崎車は先着していた。積んできた砂7袋を下ろす。これで21袋になった。



砂を下ろす



舗装レンガと砂2袋を終点へ



舗装レンガ40枚ほどと砂2袋をモノレール終点まで上げる。

霧雨が降ってきたが、第2ベンチ付近で止んでしまった。

小屋に着き、沖崎さんは奥駆道の台風16号(田辺市に上陸し紀伊半島横断)の被害調査に行仙岳へ出発。

児嶋さんは太陽光発電装置のチェック、梶野は管理棟の屋根に上がって、剥がした外壁トタンの修復に当たる。



巢の残りカス



削り落とした



外壁トタン復旧

屋根の上に仰向けに寝そべっての作業で腕が疲れる。

スクレーパーで巢の残りを削り落とし、剥がした外壁トタンを元通りに傘釘とビスで止めた。コーキング剤で開いている部分を埋めに掛かるが、一番奥の隙間は広すぎてコーキングでは埋めきれなく、板またはトタンなどで塞ぐように考えたい。

11時20分に復旧作業は終了。ほぼ同時に沖崎さんが帰ってきて「何も異常なし、かえってきれいになってるくらいや」と調査状況の説明があった。

12時近くなったので、昼食にする。



取手突起を切断



玄関灯設置



点灯！

昼食後、ディスクグラインダーでストープ上部にあった取手状の突起を切断、アルミ円盤が直接ストープ外縁に乗るようにした。これでストープ上でも、お湯が沸騰すると思われる。

先日、栗原さんが逆峯奥駈行の際、小屋玄関(外)で濡れタオルで体を拭いてもらった。

発電機で小屋内の照明は点灯していたが、ドアの外は真っ暗で、ヘッドランプなどの照明が必要だと感じた

そこで手元にあったテープ状のLEDを細工して、玄関灯として取付けた。スイッチは、用意していったが、コードの長さが足らず、暫定措置としてトイレのスイッチと兼用にしたので、トイレの照明スイッチでトイレと玄関のLEDが点灯する。タイマーが入っているので、約16分で自動消灯する。

次にコードの露出部分を塩ビパイプで保護すると同時に、玄関用のスイッチも取付ける予定にしている。

午後1時15分、沖崎さんと児嶋さんは、持ち降ろす不用品を背に小屋を後にした。

梶野は鎌とノコをもつて行仙宿水場へ降りる。伸びたシダや馬酔木の枝が障害となっていたので、切り落としながら下った。

小屋内のポリタンクはどれも一杯入っていたので、今回は荷物無しで楽チンだ。

水場は小さな滝のように流れ落ちていて、しばらくは続くように思う。



水場道整備前



整備後



小枝は多数

小屋に戻り焼却炉に詰まっていたゴミを燃やした。枯れ枝を集めて同時に燃やし、高温の完全焼却を試みた。灰の中にアルミホイールなどの不燃物があるので、焼却灰の分別回収が必要だ。

焼却炉の鎮火を見届け、午後3時15分下山を開始、登山口でズボンを履き替えると左足脛が血だらけに、水場へ降りる途中でヤマビルにやられたようで、ヒル本体を探したが十分に吸血して満足したのか、どこにも見つからなかった。



水場の状況



気づかないうちに流血



行動タイム

09:30 補給路登山口 09:40 → 10:15 行仙小屋・作業、昼食 15:15 → 15:50 補給路登山口。

(記：梶野)